

## 伝統工法建築物

### 技術概要

地域の風土に適合した自然の建築素材（木や竹、稲ワラ等）を用い、日本の伝統的な工法（継手仕口等の木組技術等）を用いた、あるいは応用した建築物。

### 新都市での導入効果について

伝統工法を新都市で導入することにより、以下のような効果が期待される。

- ・ 化学物質を含む建材・塗装・接着材等を使用回避によりシックハウスやアトピー対策ができる
- ・ できるだけ地場の建材を使うことで、材料運搬に係るエネルギーを削減できる。
- ・ 再生可能資源である木材建材を活用できる。
- ・ 木材主体の組み立て式構造のため、メンテナンスや解体時の再利用が容易で、建材の加工に必要なエネルギーも削減できる。
- ・ メンテナンス次第で長寿命化も可能。
- ・ 通気性がよく冷房需要等の削減に寄与。
- ・ 地場の木材利用により、森林・里山の適性管理にもつながる。
- ・ 建物更新・廃棄時に発生する建設廃材も木材中心なので自然に帰りやすい 等

### 導入における課題（ 対応策 ）

現代の建築物での生活に慣れた住民のライフスタイルと整合がとれるか等が課題。

環境教育等により環境共生型ライフスタイルを促進する。

### その他（ 導入状況・技術開発等動向・将来見込み等 ）

国全体で包括的な取組みは特にないが、各地域の中小工務店等においては地域の特性を活かして固有の取組みが行われつつある。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成